

基礎統合演習

科目責任者 矢澤 卓也
学年・学期 2学年・3学期

I. 前 文

みなさんはこれまでの基本医学、基礎医学講義・実習において、正常な状態の臓器・組織の構造、代謝、生理機能を学んできた。次に重要になるのは、正常な状態を脅かす原因について学び、疾患のメカニズムを正しく理解することである。この思考回路を自らの脳内に作るこそが、3年次以降の臨床講義や診療参加型臨床実習において疾患の各論をスムーズに理解することに繋がる。

「基礎統合演習」は、循環障害、代謝障害、感染症・炎症・免疫、腫瘍などに関してグループワークを含む演習形式の統合型講義を行い、疾患の原因・病態から診断、治療に至る過程について正しい思考回路の形成を促すことを目的としている。

II. 担当教員

教授 増田 道明 (微生物学)
教授 矢澤 卓也 (病理学)
講師 矢澤 華子 (病理学)
教授 藤田 朋恵 (薬理学)
教授 川合 覚 (国際協力支援センター・熱帯病寄生虫病室)
教授 若尾 宏 (先端医科学研究センター 生体防御研究部門)
准教授 杉本 智恵 (先端医科学研究センター 生体防御研究部門)
准教授 桐木 雅史 (国際協力支援センター・熱帯病寄生虫病室)
准教授 小嶋 英史 (先端医科学研究センター 生体防御研究部門)
講師 石川 知弘 (微生物学)
講師 布矢 純一 (微生物学)
助教 佐藤 洋隆 (微生物学)

III. 一般学習目標

基本医学および解剖学、生化学、分子生物学、生理学で学んだ知識、さらに微生物学、医動物学、免疫学、病理学、薬理学で学んだ知識を基盤に、疾患に対する病態分析能力を身につける。

IV. 学修の到達目標

- 1) 提示された症例について、疾患の原因、病態生理、診断方法、治療方法について説明することができる。
- 2) 学んだ疾患について、その原因についてのトピックや、最先端の診断・治療法を検索し、説明することができる。
- 3) 基礎医学と臨床医学が有機的につながっていることを理解し、説明することができる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	12	14	木	4	課題1	未 定	1,2,3,5

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
2	12	14	木	5	課題2	未 定	1,2,3,5
3		14	木	6	課題3	未 定	1,2,3,5
4		15	金	2	課題4	未 定	1,2,3,5
5		15	金	3	課題5	未 定	1,2,3,5
6		15	金	4	課題6	未 定	1,2,3,5
7		15	金	5	課題7	未 定	1,2,3,5
8		15	金	6	課題8	未 定	1,2,3,5
9		19	火	5	課題9	未 定	1,2,3,5
10		19	火	6	課題10	未 定	1,2,3,5
11		20	水	4	課題11	未 定	1,2,3,5
12		20	水	5	課題12	未 定	1,2,3,5
13		20	水	6	課題13	未 定	1,2,3,5
14		21	木	4	課題14	未 定	1,2,3,5
15		21	木	5	課題15	未 定	1,2,3,5
16		21	木	6	課題16	未 定	1,2,3,5
17		22	金	4	課題17	未 定	1,2,3,5
18		22	金	5	課題18	未 定	1,2,3,5
19		22	金	6	課題19	未 定	1,2,3,5

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験，講義時の口答内容，受講態度を総合的に評価する。

評価の割合は，定期試験（80%），ミニテスト・口答内容（10%），態度（10%）とする。但し，合格するには定期試験の成績が60点以上であることが必須である。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) Medical Microbiology, 9th ed. (P. R. Murray et al., 2020, Elsevier)
- 2) 戸田新細菌学, 34版 (吉田眞一, 柳 雄介編, 2013, 南山堂)
- 3) シンプル微生物学, 6版 (東 匡伸, 小熊恵二編, 2018, 南山堂)
- 4) Cases in Medical Microbiology and Infectious Diseases. 4th ed. (P. H. Gilligan et al., 2014, ASM Press)
- 5) Robbins Basic Pathology 10th ed. (V. Kumar, A. K. Abbas, J. C. Aster, 2018, Elsevier)
- 6) ロビンス基礎病理学, 10版 (豊國伸哉, 高橋雅英訳 2018, 丸善出版)
- 7) NEWエッセンシャル病理学, 6版 (長村義之, 笹野公伸, 他編, 2009, 医歯薬出版)
- 8) 標準病理学, 6版 (北川昌伸, 仁木利郎編, 2019, 医学書院)

- 9) 解明病理学, 4版(青笹克之, 加藤光保, 金井弥栄, 菅野祐幸編, 2021, 医歯薬出版)
- 10) ルービンカラー基本病理学, 5版(河原 栄, 他訳, 2015, 西村書店)
- 11) カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断, 7版(赤木忠厚, 他編, 2020, 医歯薬出版)
- 12) 組織病理アトラス, 6版(深山正久, 他編, 2015, 文光堂)
- 13) 令和5年度獨協医科大学医動物学実習書(熱帯病寄生虫病編)
- 14) 図説人体寄生虫学, 10版(日本寄生虫学会編, 2021, 南山堂)
- 15) 免疫コア講義, 4版(熊ノ郷淳, 他編, 2017, 南山堂)
- 16) Cellular and Molecular Immunology, 10th ed. (A. K. Abbas et al., 2017, Elsevier) (日本語訳あり)
- 17) Immunobiology, 9th ed. (K. Murphy et al., 2016, Garland)
- 18) Immunology, 8th ed. (Roitt et al., 2013, Elsevier)
- 19) 標準薬理学, 7版(飯野正光, 鈴木秀典編, 2015, 医学書院)
- 20) NEW薬理学, 7版(田中千賀子, 加藤隆一, 成宮周編, 2017, 南江堂)
- 21) 臨床薬理学, 4版(小林真一, 他編, 2017, 医学書院)
- 22) エース薬理学(金井好克, 他編, 2020, 南山堂)
- 23) カutting薬理学エッセンシャル, 12版(柳澤輝行, 他訳, 2021, 丸善出版)
- 24) 休み時間の薬理学, 3版(丸山敬編, 2021, 講談社)
- 25) シンプル薬理学, 6版(野村隆英, 他編, 2020, 南江堂)
- 26) 2ページで理解する標準薬物治療ファイル(日本アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会編, 2019, 南山堂)
- 27) ベッドサイドの薬理学(笹栗俊之, 宮田篤郎編, 2018, 丸善出版)
- 28) カラー新しい薬理学(石井邦明, 西山成編, 2018, 丸善出版)
- 29) FLASH薬理学(丸山敬編, 2018, 羊土社)
- 30) ラング・デール薬理学, 8版(渡邊直樹訳, 2018, 丸善出版)
- 31) グッドマン・ギルマン薬理書上下 - 薬物治療の基礎と臨床 -, 12版(高折修二, 他訳, 2013, 廣川書店)
- 32) 薬が見える vol.1~4(医療情報科学研究所編, 2015~2021, MedicMedia)

VIII. 質問への対応方法

- ① 不明な点については、授業中および講義終了直後などに積極的に質問してほしい。
- ② 講義終了後も随時受け付ける。
- ③ E-mailを用いた質問も可能である。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験後には、微生物学、病理学、医動物学、免疫学、薬理学各講義の動画、配布物などを使用することにより、フィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：事前に提示された症例や課題について、講義資料や教科書・参考書、学術論文、適切なweb情報などを参考に考えておくこと（30分）。

事後学習：講義で学んだ内容について、講義資料や教科書・参考書、学術論文、適切なweb情報を参考に整理し、理解を深めること（30分）。

XII. コアカリ記号・番号

A-2-1, A-2-2, A-8-1, A-9-1, B-1-9, C-1-1, C-1-2, C-2-1, C-2-3, C-3-1, C-3-2, C-3-3, C-4-1, C-4-2, C-4-3, C-4-4, C-4-5, C-4-6, D-1-4, D-2-4, D-6-4, D-7-2, D-7-4, E-2-1, E-2-2, E-2-4, E-3-1, E-5-3, E-6-1, E-8-1, F-1-10, F-1-18, F-1-25, F-2-3, F-2-8